

## 発刊にあたって

川崎市は大正 13 年に約 5 万人の市として誕生し、戦後の高度経済成長期における急速な人口増加を経て、政令指定都市となった直後の昭和 48 年には 100 万人を超え、平成 29 年 4 月には 150 万人を突破しました。全国的には人口が減少に転じる中、交通利便性や都市基盤整備等により、今後も若い世代を中心に市外から転入等による人口増加が続き、平成 42 (2030) 年には 158 万 7 千人に達すると見込まれています。

こうした状況の中、本市における様々な課題に的確に対応し、暮らしやすいまちづくりを進めるための基礎資料として、統計情報は大変重要です。

この「統計データブック」は、「川崎市統計書(平成 28 年版)」及び「大都市比較統計年表(平成 27 年版)」などから、市民生活に関わりが深い統計情報を中心に、分野別、体系的に整理し、グラフや解説を加えてわかりやすく編集しています。

本冊子を通して、多くの皆様に活気あふれる本市の現況について理解を深めていただければ幸いです。

平成29(2017)年10月  
川 崎 市 長



# 平成29年版 川崎市統計データブック 目次

<b>I 川崎市の人口が150万人を突破しました</b>	<b>1</b>				
1 人口のあゆみ	2	36	犯罪認知件数	45	
2 人口の年齢構成及び世帯	4	37	火災発生件数	46	
3 区ごとの人口の推移と転入前・転入後の住所別移動人口	5	38	交通事故発生状況	47	
4 町丁別にみる人口増加の状況	6	39	子ども・学校	48	
5 人口に関する統計の大都市比較	8	40	保育所の概況	49	
		41	小学校・中学校の概況	49	
		42	福祉・健康	50	
<b>II 市勢データ</b>	<b>9</b>	43	生活保護の概況	50	
1 人 口	人口の推移	44	出生と死亡	51	
2	区別人口	45	着工新設住宅戸数	52	
3	人口の自然増減と社会増減	46	建て方別住宅の概況	53	
4	年齢別人口	47	選挙	54	
5	区別昼夜間人口比率	48	財政	55	
6	労働力状態	49	市民意識	56	
7	外国人住民人口	50	「ちよっと一服」	57	
8	婚姻と離婚	51	川崎市民の消費傾向		
9 事 業 所	産業別事業所及び従業者	52	～家計調査結果から～		
10	区別の民営事業所	53			
11	区別の産業別事業所数	54	<b>III 大都市データ</b>	<b>59</b>	
12	区別の産業別従業者数	55	1 人口・世帯数及び面積	60	
13	従業者規模別の概況	56	2 人口動態	60	
14	資本金階級別の概況	57	3 年齢別人口	61	
15 農 業	農業の推移	58	4 就業者数	61	
16	区別の農業概況	59	5 事業所	62	
17 工 業	工業の推移	60	6 工業	62	
18	区別の工業概況	61	7 商業	63	
19	業種別の概況	62	8 貿易	63	
20	従業者規模別の概況	63	9 住宅	64	
21 商 業	卸売業・小売業	64	10 消費者物価地域差指数	64	
22	卸売業の概況	65	11 市民経済計算	65	
23	小売業の概況	66	12 治安及び災害	65	
24	大型小売店の概況	67	「ちよっと一服」	鉄道駅の乗車(乗降)人員ランキング	66
25 産 業・生 活	海上出入貨物	68			
26	卸売市場	69	<b>IV 川崎市近隣市区データ</b>	<b>67</b>	
27	賃金・労働時間	70	1 川崎市近隣市区地図	68	
28	一般雇用保険	71	2 データ一覧	69	
29	一般職業紹介状況	72			
30	経済活動別市内総生産(名目)	73	<b>V 基礎データ</b>	<b>71</b>	
31 都市生活基盤	水道	74	1 川崎市	72	
32	下水道	75	2 川崎区	73	
33	市バスの運輸状況	76	3 幸 区	73	
34	主要駅の1日平均乗車人員	77	4 中原区	74	
35	ごみの処理状況	78	5 高津区	74	
		79	6 宮前区	75	
		80	7 多摩区	75	
		81	8 麻生区	76	

## 利用上の注意

統計表中の符号の用法は次のとおりです。

「0」、「0.0」……単位未満

「—」……皆無又は定義上該当数字がないもの

「▲」……マイナス又は比較減を表わす

「X」……該当数字はあるが発表をさしひかえたもの

「…」……数字が得られないもの